

一個のアイデンティティでよかったなって思ってる

ことが、めっちゃ下手くそからスタートして、最後

(試合に) 出れたっていうのが、自分の自信やった

語り手 栗津 匠(高校六期生 企業運営) 聞き手 滝川 康大

*

中高生時代

―栗津さんは中学生の時からサッカー部だったんですか？

うん、そう。中学二期生で。今、保育園が建つところで、あそこがグラウンドやつて。

―あ、そうなんですか。

そう。あそこも、あの保育園建つてるところの半分がアメフト、あと半分为サッカー。サッカーもその半分为中学、半分为高校。

―アイリスはまだなかったんですか？

なかった。アイリスは中三の夏ぐらいにできた。そこからもう使う幅は一〇倍ぐらいなつたよな(笑)。ロングキックとかき、俺飛んでると思ってたんですよ。

―はい。

飛んでると思ったけどさ、やっぱアイリスとか練習したら俺全然飛ばへんなみたいな。

―広くなってるね(笑)。

そう。あ、でも(人工芝)張り変わったもんな今年。

―はい。めっちゃ綺麗です。

ツルツルやったもんな。ボールも全然、ツルツルするし。

―学校当時のことで思い出に残ってることありますか？

いっぱいあるで。部活がやっぱ多いけど、ああ、今と違うっていったら、吉田先生がもつと怖かった。もつと細かった。その、こうするべきみたいなのが強かったな。だから、宿題とかも全部チェックされてた。やってんのかみたいな。

―それで、(宿題を) やってなかった怒られる？

やってなかったらめっちゃ怒られるし、遠征連れて行かへんとかあったよ。期日までやろうと思ってもやれへんやん。で、そんなん(宿題をやっているか)聞かれたらさ、やってるって言うしかないやん。

―はい。

で、俺とか何人か行っちゃった。その、遠征に。それが後々バレて、どれぐらいやろうな、二週間ぐらいとかできんかったんかな。関係ないやんと思ってたけどな部活と。めちやくちや怒られたな。先輩とか巻き込んで怒られるからさ。あと、先輩厳しかった。漫画みたいになさ、怒られるもん。今はだいたい仲いいな。それが理想やと思う。それ(先輩が厳しかったこと)は嫌やったかな。ゴール運べとか言われてたな。学校授業終わって、俺と五人ぐらいで鳥かごをすぐ行ってやるみたいなんがあるって、俺が毎回一番に行ってたんよ、つてなったらさ、一番に俺らゴール運ばなあかんやん。

―はい。

毎回さ、しかもみんなより早く来てやってんのになさ、ゴール運べみたいな偉そうな先輩来てさ、俺が打つねんみたいなシュート、はいとか言ってる運んで、毎回そうやったらさ、いや俺ら毎回運んでますみたいにな言うやん。それでキレられて、ほんで喧嘩したみたいな、そういうのあつ

たけど、もう今もうないもんな。先輩もゴール運んでくれるし。

—そうですね。そのまま高校もサッカーを続けて？

めっちゃ弱かった。まず中学はもうとにかく弱かった。二回戦敗退ぐらいで、クラブチームメンバーがそもそも少なくなくて。でもその当時もちよつとずつ（クラブチームメンバー）増えてきたかな。その当時、吉田先生と坂先生って二人しかおらんくて。坂先生サッカー知らんから。先生が見てるというか、やらせてるみたいな、端っこで。全く上手くならなかった。狭かったし。

—高校で試合には出ていたんですか？

高校はサブみたいな感じ。

—フオワードですか？

フオワード。基本後半から出てたかな。でも、下手くそやったからさ、とりあえず、フオワードやったけど、守備の方で駆られてた。あんま点、期待されてなかった。とりあえず前で奪ってチャンス作ろうみたいな、そういうことしかできなかった。まあでも出れたの嬉しかったかな。

—そうなんです。その当時はベスト何ぐらいまでいってたんですか？

ベスト八かな。そう、めっちゃへボかった。でも、その当時、比叡山めっちゃ強くて、で綾羽がインターハイいったんかな、二位が比叡山で。ほんで選手権は、ベスト一六ぐらいで、比叡山と当たって。

—はい。

比叡山？ みたいな。で、延長の末勝ったんよ。で、その次どこやったかな。ちよつと忘れたけど、どこかで次連チャン（連日）やって、誰も動けんくて、ボコ負けしたっていう。その当時は一番楽しかったな。今見るとやっぱ全然ちゃうやん。ベスト八までもう道通ってるやん。決

勝まで、なんなら通ってるやん。すごいなと思うよなー。

—栗津さんは何年（スタッフとして）立守にいたんですか？

俺は五年契約ができたんよ。でも俺はもう、ほんまにお手伝いで入ってたみたいな感じで、どうしてもやっぱ行けへん日が多かったし、あとサッカー知らんねん全然（笑）。とりあえず追いかけろみたいな、それぐらいしか知らんからさ。先生のサポートに徹しようと思った。

—はい。部活以外やったら勉強とかできたんですか？

部活以外か。勉強は全くできひんかった。

—そうなんです。その頃から賢い学校だったんですか？

頭良かったな、高校は特に。今二番目ぐらいか多分膳所、立守、まあでも（その頃は）膳所、石山、立守ぐらいの感じやったんよ。その頃と順位はそんな変わらんけど。でも、入ってきてる層は全然賢くなかったよ。で、そんな中で俺、落ち溢れてた（笑）。全然でんかった。聞いてなかったな、話を。あとは、やっぱあれやなー、文化祭とか、そういう、体育祭とかはやっぱ面白かったな。大学に行つて思うけど、こんな力入ってる学校なくて。それがよかったな。体育祭とかもあんだけ楽しめへんし、文化祭もそこまでやれへんやん。準備期間とか設けてやるっていうのも少ないし、それはよかったなと思うな。なんならもうそれしかよくなかったと思う。それと、部活ぐらいしかなかった。

—もうザ・スポーツ少年みたいな感じだったんですか？

そうやったな。でも、真面目じゃなかったらさ、多分嫌われてたと思う。上手くやるやつもいるやん、でもそういうのがわからなかった。あとさ、今思うのは、その川端先生とか辻先生とか坂先生とかその当時のさ、メンバーがいるっていうのは、嬉しいな。メンバーというか先生ね。普通の公立やったらさ、そのいてもさ、七年とか八年とかで転勤し

ちゃうけどさ、立守はもう転動ないやん、私立やし。だから、行ったら先生は絶対いる、吉田先生とか絶対移動せえへんから。だから行ったらいるっていうのが、なんか嬉しい。初蹴りとか行ってもさ、その当時の先生おらんみたいなの、学校によつたらあると思うから、そういうのに比べたらやっぱりいいよなと思う。覚えてくれてるし。高三は樋口先生やったな。高一は誰やっけ。高一の先生はもうおらんわ、高二もおらんから樋口先生しかおらんわ。

—その頃も教えてもらってて、今もいるってことですよな？

そうそうそう。中三が辻先生やって、中二が北村先生。中一が花田先生。ああ、今、南先生か、女の先生。今もいるんやけど、そういうのが嬉しいな。

*

大学生時代から現在

—大学は何学部だったんですか？

産業社会学部。そこにスポーツ社会っていうのがあって、それならいいかなと思って、あんま勉強しなくなかったし、そこに入った。よかったよ。何も学ばなかったけど、時間だけはあった。

—自分が大事にすることとか得意なこととかありますか？

それでいったらスポーツしかなかったんよ。一個のアイデンティティでよかったなって思ってるのが、めっちゃ下手くそからスタートしで、最後（試合に）出れたっていうのが一個、自分の自信やった。勉強できひんしってたたら、スポーツやるしかなかったんよな、いってもレベル低いけどっていうのがあって、そこで活躍しないと認めてもらえないとかいう気持ちがあつて、だからスポーツに進みたいなのだったので、プレイヤーは無理やけど、スポーツに関わる仕事したいな

いうことで、スポ社行つて、そこで子供のスポーツ教室に出会つて、それ今もやつてるっていう感じかな。

—二つの企業を経営しているんですよ？

そう、小っちゃいで、めっちゃ。スポーツ教室は枚方とかでやって、あとは介護のレンタルの仕事。車椅子をおばちゃんに貸したりとかっていうその仕事と、あとのカフェ。

—なるほど。どれもこう、行ってるんですか？

いや、でもこのことかもこうなんで、もうわずかに。スポーツ教室が一番売り上げが高い。そこ従業員もいるし。

—すごいですね。

いやいや、このことかほんまはやらん方が良かったもん（笑）。趣味やからなこは。

—全部起業したんですか？

そうそう、個人事業っていうのと会社があんねんけど、個人事業の方やったら誰でも始められる。介護の方だけ一応会社。

—起業するにあたって、何か難しかったこととか大変だったこととかありますか？

いや、めっちゃ簡単やで。ほんまに紙書くだけで完了する。でも、その社会人五年ぐらいやって、その期間にスポーツ教室めっちゃ働いたんやけど、やっぱ周りより働いたなっていう感覚はあるかな。色々やって、力ついて、独立できたって感じかな。そこが良かったかもしれん。めっちゃ働くの嫌やったけど、働かされたことで実力がついて、独立ができたから、苦労してたから、できたんかなとかっていうのはあるかな。いや、でもこれからやけどな。全然もつと稼いでるやついっぱいいるし。

高校の同期ってやつば結構特別。大学でももちろん友達できるけど、でも一番ベースになるなら高校のサッカー部って俺も今でもあるし、その中でやつぱさ、立命に行ったら、割とみんないいとこ就職するんよ、ってなったら、みんな稼いでるし、その中で一人めっちゃ稼いでるやつおんねん。いくらかは見えへんけど、はるかに稼いでんねんもう。そう、そこに行きたいなーみたいなね。中高大と一〇年一緒に、もうめっちゃ差離れてるからさ、悔しさはあるよな。それもまた楽しい。サッカー全然活躍してなくてもめっちゃ稼いでるやつおるから、その辺でまたちよつと面白いな。なりたいたいものとかさ、やつば大学で探し始めるんだよ。どこの学部行こうかなとかってなったらさ、将来こんなしよつかとか。でも考えられへんからな。高校生まだあんま出てこんなよな。職業もほぼ知らんし、みたいな。その中で、結果的にスポーツで行ってよかったなって今は思ってる。でも、当時は思ってた、スポーツで稼ぐのむずかしい？　みたいな。金にならんし、プロスポーツとかメーカーしか出てこうへんからさ、メーカー入るのはめっちゃむずいんよ。そこは俺は入れへんなと思ってる。最終、今この形になってるからいいんやけど、でも後悔してた時期もあったな。スポーツインストラクターって稼げへんから、その従業員で働いてると、なんでこんなやつちやったんやろみたいな。不動産屋とか行けばよかった。そんなんずっと思ってた時期もあった。

ースポーツインストラクターって、どういう職業なんですか？

習い事の先生みたいな感じ。水泳教室の先生とか体操教室の先生の中の、うちはスポーツ教室の先生みたいな位置づけ。

ースポーツ教室の六つの競技ってどんな競技があるんですか？

サッカー、ドッジボール、スポーツ鬼ごっこっていうのがあるんよ。

そのスポーツ鬼ごっこ、陸上、ラグビー、あとアルティメット、フリスビー投げるやつ。その六つ。

ーその競技を順番にやっていく感じなんですか？

そう、二ヶ月ごとに、二掛け六で十二か月みたいな感じ。別にいいとこはさ、試合に出えへんからさ、レギュラーも選ばんでいいし、逆に勝ち負けもないから、甘い。

ーなるほど、楽しく感じる感じなんですね。

そう、楽しさ重視な感じ。だからバリバリスポーツやっていきたいっていう子はあんま入ってこうへんかな。スポーツ苦手でみたいな感じで、親がどうしてもなんかしてほしい子が入ってきてくれて、ちよつと楽しいなみたいなを感じる教室。

ー高校生の時からこういう子供のスポーツとかに興味があったんですか？

全然、興味なかった。うーん、ほんまになんもなかったんよ、やりたなこと。大学行くときに面接あるやん。将来何かしないといけないから、何したいんですかって絶対聞かれんねん。人の役に立つ仕事ぐらいしかなくて。それもつと掘り下げてとか、色々怒られたんやけど、でもわからなかったから。大学に行って、偶然出会った社長がめっちゃ稼いでたんよ。お金持ちになりたいなっていうのはずつとあって、俺もそうなりたいたいと思って入ったな。

ー偶然の出会いがきっかけで、子供スポーツの道に進むことを決めたって感じなんですね。福祉のレンタル仕事はどういう感じなんですか？

例えば、脳卒中とかで倒れて入院して、じゃあ脳系のはさ、こつち麻痺とかするんよ。片方の手が動かんとか、足も動かんみたいになつて、退院するために家に帰るやん。でもさ、もう今までさ、健常者やつ

たけどき、急にこっち動かんとかになったらさ、もう家がさ、住めんくなるんよ。こっち動かんし手すりが必要やなとかってなったら、うちがその手すりを付けてあげる。こっち動かんからこっちにつけましようとか。車椅子いるねってなったら、車椅子準備したりとか、その手配をする仕事みたいな。

―それはどういう経緯で始めたんですか？

これも偶然なんやけど、不動産にハマってた時期があつて。やつぱ金稼ぐなら不動産やろみたいな。自分で買って貸すみたいな仕事をしてたんよ。で、偶然借りてくれた人がその仕事をして、俺も暇やったから、子供のスポーツ教室だけじゃなくて、もうちよつと安定する仕事したいなと思って。じゃあ、そのおっちゃんと話中で、それやろうって、そのおっちゃんと二人で始めた。

―ここ（ボードゲームカフェ）はボードゲームが好きだから始めたんですか？

そう、今年の初めぐらいに、二月、一月ぐらいかな、めちゃくちゃハマって、だから暇があつたらずつと（ボードゲームカフェに）行つてたんよ。その店長がめっちゃいい人で、俺もやろうと思って始めたこれ。

―どれぐらいお客さん来るんですか？

全然こうへん。席数もいつてもさ、ここ二テーブルしかないやん。あと上があるんやけど、今でちよつと売り上げぐらいな感じかな。まだ二ヶ月やし、ここで別に売り上げそんなめっちゃ立てたろうと思つてなくて、やつぱ自分のさ、事務所みたいな、欲しかった、店みたいな。一人やから楽やし、ていうのが大きかったかな。あと、遊びながら稼げるっていいなと思って。

高校生時代の思い出

*

―また高校時代の話にはなるんですけど文化祭は何したんですか？

文化祭はでも、今と変わってないと思うね。でもちよつと変わってるか。高一ぐらいから日本一の文化祭にしようっていうのが始まったんよ。だから、そこから多分、お金のかかりようとか、その準備の期間が長くなったりとか、始まったと思つて。一年生は全員、クラスの劇。ちゃうわ、映画や、映画。映画撮りにいこうってなつて、全教室映画上映してた。今思つたら、すごいな、誰か編集してたわけやもん。パソコンとかあつたもん、編集してたと思う誰かが。二年生は劇、教室で。教室の半分を舞台作つて、酒屋のさ、なんかこんなプラスチックの、こんなやつひっくり返して、舞台作つてやる。三年生は、メディアホールの劇。そこは変わってない。クオリティ多分めっちゃ上がつてると思うけど。

―何の役やったか覚えてますか？

え、覚えてんで、なんかちよい役。ちよつと出てくる、モモつていう、三年生の時は、タイムトラベルする話。どっかの国の童話みたいな、だから桃太郎みたいな感じの、違う国バージョンで、モモつていう、時間をコントロールするみたいなやつがあつて、そのの、桃太郎でいったら、キジぐらい。

―体育祭はどういう感じだったんですか？

体育祭がさ、今はどうか知らんけど、ダンスってある？ 団アピールみたいな。あれがメインじゃない？ 違うんかな。いや、あれの練習しかなかったんよ。

―部活対抗リレーとかあつたんですか？

あったあった、応援してた。一個上ぐらいから応援始まったんかな。俺の一個上ぐらいからようやく太鼓導入されたんよ。そこから本格的に応援するみたいにな始まった。あれ楽しかったな。卒業式のなんか謎の応援。あれも楽しい(笑)。

―それもその頃から始まった感じですか？

その頃から始まった。なんで始まったんやったっけ。吉田先生かな、応援しようみたいな言って。やっぱ青春やな。ビックレイクとか行ったら思い出すもんな。そうなってくるね。チャリで行ってたな。もう絶対チャリでいかんけど。ほんまにそう思ったら思い出スカスカやな。何にも出てこうへん。昔、中学校でさ、学校のルール自体ももうちよつと緩かったんよ。先生たちも新しい学校やったから、二期生やし、ルールが定まってるから、先生たちも困惑してたみたい。ある日さ、ちょうど夏休み前ぐらいかな、中三は海外研修でおらんくて、俺らしか学年おらんくて、一年生だったか、二年生やったかな。吉田先生がかくれんぼしよとか言い始めてさ。俺、中学の記憶、それが一番覚えてるもんな。どこに隠れたか覚えてへんけど、楽しかったのだけ覚えてる。先生が探してくれて、全力で。球技大会とかも楽しかったな。あるんかな、今。

―いや、今ないですね。

ないんか。クラス対抗で、男子がサッカーとバスケに分かれて、女子はソフトボールとかやったかな、テニスかどっちかでトーナメントする。楽しかった。うちのクラスはさ、サッカー部がさ、八人ぐらいおつてさ、結構強かったんやけど、最後、決勝で、二年生と一年生の大会みたいで、みんなが応援に来てくれた。結局PKで負けちゃったけど。―学校にはどうやって通ってたんすか？

電車で通ってた。大津駅に住んでたんよ、大津駅の近く。今でも覚えてる。七時四二分の新快速で乗る場所決まってるみたい。そこでみんなで行ってた。それからバスは当時、中学と高校一緒やったからさ、天一の前とこ、あそこの階段あるやん。あそこ登ってさ、駅の前まで来てさ、駅の改札のさ、セブナイレブンに降りるでかい階段、その下の、階段まで上って折り返してみたいな、そんな感じやったな。俺は遅刻癖があったからさ、サッカー部は朝礼一〇分前に集合して、みんなに一分間スピーチするみたい。一人ずつ回っていくねん。

―何人ぐらいいたんですか？

当時は七〇人ぐらいかな。しかも始業早かったからな。八時四〇分かな、だから八時半に集合して、一言喋ってた。その一言が嫌やねん。みんな聞いてるし、しかも、なんかさ、やっぱおもんないんよ。学生の話なんかさ、その、喋らせられてる話やからさ、おもんないなと思って、何の時間やろみたいな感じになってた。その中で話すから余計に話しくいし。たまに先生来るっていう。

―これからやってみたいことありますか？

でもやりたいことやってるしな。いったら、プロスポーツのイベント関係。それはやってみたいかな。J(プロサッカーチーム)は一年に一回やったかな。半年に一回やったな。イベント開催せなあかんから、そこで毎回もらえる仕事くれるんやったら、その都度でまずやりたい。それ実績にしていっぱいあるからさ、Jのチームって。そこにこう、営業に行きたいな。

―頑張ってください。ありがとうございます。

ありがとうございます。

【感想】

今回のインタビューで、普段聞くことのできない学校や部活の昔話を聞くことができました。特に印象的だったのは、二つの会社とカフェを起業した話で、自分のやりたいことに挑戦することの大切さを感じました。自分も将来やりたいことを仕事にできるようにこれから色々なことに触れていきたいと思っています。



右：語り手 栗津 匠さん
左：聞き手 滝川 康大